

平成30年度第4回白馬村図書館施設検討委員会 議事録

|              |  |       |    |
|--------------|--|-------|----|
| 日 時          | 平成30年10月19日（金）午後3時から午後4時35分まで  |       |    |
| 場 所          | 白馬村役場302会議室  |       |    |
|              | 役職名等   | 氏 名   | 出欠 |
| 委員長          | 社会教育委員会委員長   | 富山 正明 | 出  |
| 副委員長         | 図書館協議会会長   | 小林 英雄 | 出  |
| 委員           | 太田一級建築士事務所   | 太田 史彦 | 欠  |
| 委員           | 前白馬村教育委員会教育委員長   | 塩島 弘之 | 欠  |
| 委員           | しろうま保育園保護者代表   | 石山麻衣子 | 出  |
| 委員           | 白馬幼稚園保護者代表   | 中澤小百合 | 出  |
| 委員           | 白馬北小学校 PTA 会長  | 武藤 慶太 | 出  |
| 委員           | 白馬南小学校 PTA 会長  | 渡部 虎史 | 出  |
| 委員           | 白馬中学校 PTA 会長   | 太田 具英 | 欠  |
| 委員           | 白馬北小学校校長   | 木下 政道 | 出  |
| 委員           | 白馬南小学校校長   | 倉科 浩美 | 出  |
| 委員           | 白馬中学校校長  | 田中 守  | 出  |
| 委員           | 公募委員   | 小川由美子 | 欠  |
| 委員           | 公募委員   | 長島 律子 | 出  |
| 委員           | 公募委員   | 高橋 英子 | 出  |
| 事務局          | 生涯学習スポーツ課長   | 関口 久人 | 出  |
|              | 生涯学習スポーツ係長   | 柏原 英司 | 欠  |
|              | 生涯学習スポーツ課主幹  | 下川 貴彦 | 出  |
|              | 図書館司書  | 松沢由美子 | 出  |
| 委員以外<br>の出席者 | （役場総務課） 渡邊宏太<br>（一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所）<br>花井裕一郎、田中榮博、蓮井英史              |       |    |
| 傍聴者          | なし   |       |    |
| 会議次第         | 1. 開会<br>2. あいさつ<br>3. 協議事項<br>（1）図書館施設検討委員会報告書について<br>（2）その他<br>4. 閉会 |       |    |

## 1. 開会

## 2. あいさつ

(関口課長) お集まりありがとうございます。だいたい固まってきた部分を肉付けして、最終的な答申案までいけたらありがたい。

(委員長) お疲れ様です。急に天気が悪くなって真っ暗になってきましたけど、この会議が真っ暗にならないように、最後まで議論していただきたいと思います。若干、前回の話のことがプラスされた部分と、こちらのほうで私の考えもあって加えた内容がありますので、議論の上最終案にしたいと思います。

## 3. 協議事項

(下川) ここからは委員長に進行をお願いします。

(委員長) 前回に引き続き、報告書の内容の検討をしていきますが、その前に、しろうま保育園の保護者のアンケートを集めていただいた。石山さん、説明をお願いします。

(委員) 去年幼稚園でアンケートをとったことで、今年は保育園でとらせていただく。回答数は53件で、全体の半分くらいの回答だったと思います。アンケートなので強制ではないので、書きたくないとか書くことがないという方は提出がなかったと思います。同じような回答を書かれている方についてもそのまま載せました。それぞれの気持ちでお書きなので、できるだけその書き手の気持ちを考えるようにと思って、文章自体は修正などせず、逆にいくつかの答えを、同じニュアンスだと思ってくっつけても、意図が違うのもあれかと思ってあえて、そのまま載せました。ご承知の上でご覧いただきたい。取りまとめて感じたのは、ここに書かれているのは、保育園だったり、小学生のお子さんのお母さんたちの回答ということで、本来の「図書館」だけではなく、図書館に付随するそれ以外の機能も期待されていると感じました。図書館の内容で言えば、学習スペースとか、本を読むスペースにしても、小さな人大きな人ってことで、声の問題をクリアできるように、スペース分けをしてほしいという希望。今の図書館は本数が少ないので、本数が増えるように、たくさん本がほしい。図書館を、新しいものを作ることに対しては、だれが答えても大きくかわるような内容はなかったと思います。ただ、それ以外に小さなお子さんをお持ちのかたならではのことと、前回ここで話したように、この村は満足に公園もない、室内で集えるスペースもないってところから、村内にある村のもの以外のところを頼らねばしょうがないって現状ですって、お話しさせてもらった。びっくりしたのは、みなさんこういうこと、知っていると思っていたんですよ、だけど大勢のかたが「本当なの」って顔をされていたので、びっくりしました。実際白馬村でお母さん方がどういうことで困っていて、お母さんたちも、図書館ができるなら、便乗して、こんな機能、あんな機能がほしいなって、日頃思っているんだけど言えなかったかたの意見が、この中にたくさん詰まっている。どなたかが書いてくれていたが、この会議のなかだけで話を決めるのではなく、いろんな所を見に行ったり、ほかの図書館なり、現状を知ってほしい。自分がこの会議に出席し、思ったところと言うと、図書館だけではなくて、母親たち世代がどういったところで困ってい

るのかも、現状もあわせて、こういう理由でこういう施設が欲しいという希望がこの中に書かれているので、このアンケートの結果を去年の幼稚園のアンケートとくっつけて報告してもらえたら。これが実際に白馬に住んでいる人たち母親たちの声です。この会議も有識者会議も男性の割合が多い。私も公務員の娘なので、わかるのですが、自分のお父さんは子育てしていません。日曜日も土曜日どこにも連れて行ってもらえなくて母親といっしょにすごした自分なので、お父さんがどれだけお母さんたちの困ったことを知っていたかっていうと、たぶん何にも知らないんですよ。知らずにいい年になっちゃった、子育てに関わっていない人達が決めちゃうと、実際使う人の気持ちに沿わないものになってしまうのは。この2枚のアンケートの声も一緒につけて出してもらえるとうれしいです。

(委員長) いろんないいところをついている。ぜひ、活かしていけるところは活かしたい。ひとつの資料として使いたい。ありがとうございました

では、前回の訂正とつけ加えたところについて、事務局より説明をお願いします。

(下川) 報告書により説明(前回の会議から修正した所が赤字とした)。

報告書とは別に航空写真を1つ資料で添付してあります。前回の会議で支援ルームを候補地としていただきましたが、こちらのほうから提案ということで。

(関口課長) こちらの航空写真につきましては、支援ルームのところは道幅が狭い。作る条件として道を確保しないといけないということで、建設の方と調整したのですが、塩の道を拡幅は難しい状況です。であれば、いま拡幅をされているハピア駐車場の西の農地を買収することもひとつあるかなと。ただ、村から総事業費の提示がまだないので、基本的には支援ルームの敷地でいいかと思うのですけれども。大きくとるにはこちらの方に持って行った方がいいのかなと思い、検討していただければと思い、この写真を追加した。

(委員長) 何平米ですか？

(下川) この青い枠は、おおむね4600平米。ほとんど支援ルームと同じです。

(関口課長) 周りは農地なので、さらに広めることも可能なのかと。いずれにしても、総事業費が分からないことには、買収できるかどうか分からない状況です。用地交渉しているわけでもない。ただ、こういう空きスペースがあるという提案です。

(下川) 補足として、メリットはハピアが近いことで、飲食物は容易に買えるということと、建て替えのあいだ、支援ルームはどこに行くのということを考えなくて済むのかな、というのが利点と思います。デメリットは私有地ということで用地買収のことがあげられると思います。

(委員長) 内容について若干変更があったなかで、私が考えたのが、前回の会議で子連れで行くと

ころがないという話の中で、あのときは、横に別に子どもたち用のスペースとして支援ルームの新しいの、という話が合ったのだけれども、基本的に図書館自体が、だれでも気楽に来れる図書館にしようという考えで、遠慮せず、気兼ねなく来れるという意味では、例えば子供の声が迷惑になるんじゃないとか、動きまわっちゃ困るんじゃないとかの心配しないような形にしないといけないと思った。別個につくるのもひとつだけ、図書館自体も、気軽に寄ってほしいというイメージがあるので、図書館として、そういうことにもっと寛容になってほしいということで言葉を付け加えてある。飲食を、どこでどうこうってのはないけど、こないだの話だとスペースをどこかに作るっていう表現になりそうだったので、例えば学習室みたいなところの場合とか、デスクスペースとかでは、ある程度飲み物ぐらい、いいんじゃないかっていうイメージがあったので、どこでどうして下さいっていうんではないが、幅広い感じで検討してほしいという意味合いで、表現を変えさせてもらった。報告書全体をもう1回見るなかで、ちょっと固い方向に寄りすぎたかなってのがあって、この会では、すべてがかなうわけでないでしょうから、考えうることは一通り出しておいた方がいいと思って、いくつか項目を加えた。そのため、いくつか表現を変えたり内容を加えたりしています。まず8以外のところで質問やお考えを。表現かえた方がいいとか。それから、施設のところで「映像コーナー」を入れたんですが、私のイメージなんですけど、博物館なんかの入口のところにあるような。村の紹介を映像とか、流して観光客のかたが見る、というような、いいんじゃないかと思って入れてみました。パタゴニアでながれていす、ああいう感じ。音に関して図書館は静かにするもんだよという、昔からのイメージがあるけど、ある一面では、静かすぎるとかえって息苦しくなるというか、いづらくなる。これについて研究した人がいて、日本全国でアンケートみたいな形でとると、古い図書館があるところは静かなのが基本で考えてる。新しい図書館が増えてるところに関しては多少音があってもいいんじゃないかっていう傾向の研究データがありました。どの程度かは考えないといけないけど、すごく静寂すぎると、鉛筆1本落としただけでもすごい気になるんだけど、なんとなくほかに音がある場合は気にならないってことが、耳の感覚にあるようです。気楽に考えた方が、来る人も気楽に入れるんじゃないか。経営する館長さんとか館員のかたが考えることではあるけど、旧来の「しっ、図書館ですよ」っていうものじゃなくて、気楽に会話したり子どもの声がどこかで聞こえるのはいいんじゃないか。静かにしたい人には静かなスペースが確保され、図書館全体としては、行くと子どもの声がどこかでするような、ちょっと明るい方が一人で暮らすお年寄りなんかは、ちょっと気が休まる、ホッとするのはあるんじゃないか。今は、小学生が来ると、そこそこ音がしてるみたいですけど。大騒ぎは、限度問題があると思うけど。まあ子どもの声がするくらいの方がいいんじゃないか。それに応じて、音が響かない構造とか、配慮して考えて欲しい。

(委員) 前回から保育園のアンケートとか出してもらって、子育て世代に来やすいって話は進んでいて、場所も支援ルームのところになりそうだったことで、花井さんに伺いたい。支援ルームの場所はお存じ？あの場所と土地で小さい子どもたちとの来やすい図書館であって、そういった図書館、他の市町村の施設であったりして、あの規模で白馬村で建てるとしたらどんなイメージがあるとか、問題点とかあったら聞かせて欲しいです。

(花井) ここがいい、とかこういうパターンがいいですよ、とかは言いづらいが、ここでのことが有識者会議にもあげられるし、議論していただきたいと思っているんですが、土地の面積は、さきほど課長がおっしゃったように、まだ金額が出ていないので分からない。駐車場の事とか、広場ってことばが図書館のなかではひろまっている。図書館とか複合施設で、前に広がる外の空間をどう演出してコラボレーションさせるかってのがある。図書館だけでなく、最近は商店街とか、再生とか。最近おもしろいと思ったのは、福井市。図書館でないが、広場があつて、広場をガラス張りにしてるんだけど、下4メートルだけ、なにもないんですよ。人が立っている空間としては、外に見えるんだけど、実は上にガラスがあつて、屋内になつて。屋外屋内が差別化されていない空間。そこに人が集まってきて、そこでにぎやかさを演出している。それを聞いた時に、図書館でもできるんじゃないかと思った。白馬に来て、みなさんがおっしゃるのは、白馬は雪が多いので、遊べない、雨の時、行く場所がないという意見が多い。子育て世代の方がいわれてて、全部囲われてないと寒いし、外で遊ぶのは無理な時に、中間的な空間づくりってのがあるのかなと思って。報告を見ただけで、実際まだ見に行っていないんだけど、そのイメージかと思っています。他の事例で、東京の武蔵境の、武蔵野プレイスは図書館と広場をうまく使っている。外でも本が読めたり、入ってすぐカフェコーナーがあつたり、ゆるやかに本と接して中に入って行く。逆もあつて、どことは言わないが、図書館の前に大きな広場があるのに、行政のなかでセパレートされてる持ち物で、使い切れていない。これからどうしていくかの相談が起きている。この場所になるにしても、他の場所になるにしても、いろいろ案が出てくるでしょうけど、「広場」を念頭に置いて、そこも複合施設なんだという形を検討いただけるといいと思います。答えになつてるかどうかわかりませんが。

(委員長) 小布施の図書館は何平米くらい？図書館自体の建物。

(花井) 1000。998くらい。

(委員長) 隣りは小学校のグラウンドで、敷地は広い。グラウンドはなんにも使っていないの。

(花井) グラウンドと図書館の間の隙間をたくさん使って、そこでイベント。直接グラウンドのほうに出ていくことは、多少はお借りした。いい意味での臨機応変さを出していくのがいい。駐車場は絶対確保ですね。白馬は車社会。どのくらいの量が必要かは計算していただいて、人気が出れば出るほど車で来られる方多いし。報告書にバスなり大型車の送迎の案も書いてありますね。障がい者のかたのアプローチのいいことも考えないと。将来的には確保しながらつくらないと。あるところでは、都市ですが、地下駐車場を作ったのに障がい者がすごく行きづらくなってしまって、僕の方から、クレームじゃないですけど、なんとかしてくれないか頼んでます。雨に濡れないようにどうやって、障がい者のかたが、車いすの方が一人で動かれるのか。マイノリティのかた、ベビーカーが、使いにくいことになってしまった。目が届かないことがあるので、将来的に細部を考える段階ではそこまでイメージして欲しい。この報告書に、障がい者の方、ベビーカーが入りやすいとか、そこまで書いたほうがいいのかなど。

(委員) 施設の中としてはどうなのでしょう？

(花井) ここにもグループ学習室とかいろいろ書いてあるんですけど、自分の経験は実際に建てたのは4件。ケースバイケースで、そんなに大きくなければ、個人的には、ワンフロアがいいと思う。ワンフロアの大きなものに対して個室なり、グループ学習室とか、ボランティアの部屋とか、多目的ホールがほしいんだってことも入れていけばいいと思うけど。基本的にはワンフロアをどう演出するかがいいと個人的には思ってます。それと、本棚の並べ方はすごく重要。ただ単に、ずら一つと並んでるのがありますが、あれは利用しにくい。ある程度の長さで。本のこと知ってる人は、ここにあるなってわかるけど、今求めているのは、これから楽しもう、慣れてない人に図書館にきてほしい、そういう人には長い本棚はいらない。くねっていてもいいから、本棚に囲われるとか、そんなに歩数がなくてもすべての本のところにいけるほうがよしとされている。

(委員長) 表紙を向けてるパターン、ありますね。

(花井) あれはとりやすくなるし、興味がわく。

(委員長) いっぱいは置けないけど。

(花井) 自分がかかわった、群馬県太田市の美術館図書館は雑誌300誌にしたけど、全部表紙を見せています。計画から。見やすいですよ。

(委員長) 表紙、凝ってるの多いですね。

(花井) バックナンバーをどうやってとっておくとか、あと運営面が。

(委員長) さっきの、福井のは、どこですか？

(花井) 福井のは、資料を置いてきてしまって。またお知らせします。交付金を、補助金で作った広場で。どうやって活用するか的事例発表で。また持ってきます。

(委員長) 他にになにかご意見は。花井さんに聞く予定じゃなかったけど、せっかく来られたので。バリアフリーとかも考慮に入れないといけないですね。どこかの図書館で、お母さんが本を選ぶときに、子供をベビーカーに乗せてると本が取れないので、ショッピングカートを入れた図書館があると。

(デザイン研究所 田中) それは私もやった。ショッピングカートを置いた。

(委員長) あれおもしろいなと。

(デザイン研究所 田中) それとは別にちゃんとベビーカーも置いてあって、ご自由にどうぞ、と車いすも置いて。やっぱり、身体障がい者のかたのことも、ちゃんと考えないといけないんです。これからの施設は特に。差別してはならない。同じサービスはしないといけない。それは、はじめからしっかり考えておかないといけない問題です。このなかに、ぜんぜん書いてないのですが、保存書庫のことは？保存書庫はいるんですか、いらぬんですか。

(委員長) 出してるつもりでいたんだけど・・・。

(デザイン研究所 田中) 本をたくさん置く場所はお考えの事と思うんです。

(委員長) 考えてあります。それ以外に本としての書庫と、あと古い資料の保管場所の確保は必要でしょう。今までそういう場所はなかったの。そういうイメージで入れたんですけど、また確認して。分かりづらいのであれば、8についてお話しします。この間のみなさんの話をいれてあるのが①とか②③。⑤。場所についても、面積がどれだけ必要なのかをお金のことから検討して下さいと、書かれています。子供については、子育て支援ルームみたいな機能を、図書館以外にも近接してあったらいいんじゃないか、と入れてある。この一時預かりってのは図書館ではできないので、併設出来ると来やすいんじゃないかということで、いれてあります。カフェ的なもの、あえてほしいとも欲しくないとも書いてないんですけども、このあいだお話があったので、検討できればということで施設内あるいは近接する場所ということで、設置することを考えて欲しいということで、入れた。子ども、高齢者を含めて気楽に使っていただけるカフェスペースってことで、どういう形になるかはこれからの検討だと思うが、どこかに用意してほしいということで③を入れた。④は書いてある通りですし、⑤はこの間最後にあった話。⑥は花井さんのお話にもあったように、多目的室みたいなのを、別個に設ける場合、その空間がデッドスペースになってはいけない。設けたとしても、常時なにか開放して使えるようにしておくとか、有効利用を絶えずはかってほしい。無駄なスペースを作らないという考えの中でいれました。使わないところが増えるのはよくない。使わないんだったら作らない方がいい。稼働率が低いんだったら使う必要がない。なるだけ使っていない部分を作らないようにしてほしいという意味でこう書き加えてあります。⑦は僕の希望だったのですが、さっきの本棚の話も含めてなんですけど、いつも思うのは並んでいる本だけがすべてなのか、それ以外にあるのかがすぐ分からない。検索すればわかるけど、それも面倒なので、1つの課題があった時に、調べるなかでこれ以上に本があるのかないのが、分かるようなものがあれば便利。そこに並んでいる本が少なくても、別のところから出してもらえらるならスペースの有効利用。全部を並べておく必要はない。作り方や見せ方でできるのではないかなと思って、書かせてもらいました。図書館に行くといつも思う事です。⑧は、さっきお話したようなことで、いろんな意味で、誰でも立ち寄れる気楽な雰囲気をつくってほしい。今までのちょっと敷居の高いものでない形で、敷居を下げる工夫してほしいということで書かせてもらった。敷居の高い部分はいろいろあって、それはなんなのかってことはいろいろある。それぞれそういったものをどこまで下げるのか、どのレベルにすれば使いやすいのか、踏み込んだ作り方にしてもらえれば、だれでも立ち寄れる場

所になる。なにか質問は？付け加えたいこと、表現、なにかありますか。

（委員）③のカフェの話。本文の「飲食について」のところで書かれていることとの整合性は。重複してるんじゃないかというか。

（委員長）カフェはどちらかというと、いわゆる喫茶店方式のカフェ。この間話があったが、どこか集まってちょっとお茶でも飲んで、子連れで行けるところがなかなかないというところがあって、そういう場所がほしいという要望が多いということで。この前の会議の中でカフェって言葉はよく出た。カフェは、深く考えればコストや経営のこともあるけど、検討しないといけないけど、お金を払って軽飲食ができる場所というイメージです。若干絡むといえば絡むけど、図書館での飲食は、本を読みながらお茶ができるかどうかというイメージ。スペースとしてのカフェとはちょっと違うということで、分けて書いてあります。造りかたによっては一緒になるかもしれないけど、いっている方向が若干違っている。今までは禁止されていた飲食をもうちょっとできる場所を増やした方がいいんじゃないかっていうのと、それとカフェをもちこむかどうかの2つの方向性で分けて書いてあります。⑧のカフェは一般の民間の方が出店する、みたいなイメージ。要望があるのであれば入れておいた方がいいかな。お母さん方の期待度は高いってわかった。

（委員）本文の3にも運営の委託のこともかいてあるから、同じでは。

（委員長）外側に建てて、近接して作ってほしいってことですが、まああえて書かずに中に作れるなら中でもいいし。一部かぶっちゃったかなってところはあります。ここはちょっと文面かえないと。可能性を全部消すことはない。いろいろ予算の関係や維持管理で、どんなことを考えるかで消えるかもしれないし、ちがう形になるかも、今のところは考えるものとして、方向性としてだめじゃないのであれば、要望があるのであれば、今の段階では入れておいた方がいい。私は否定的な意見は入れたくない。

（委員）否定ではなくて、かぶってるんじゃないかって思ったんですけど。

（委員長）やっぱり期待度が高いよって話があったから。最後に付け加えたので、ちょっとかぶったところがある。

（委員）別のところで4 p。①にかかわる「場所について」ってところ。「移動手段のない方も利用できるよう送迎バス等の導入を検討すること」ってあるんですけども①のところに「交通の利便により」ってことを加えたらどうか。⑤「デザインに偏らず」ってあるが機能的なもの。いま、中学校の横に給食センターを建てているが、大勢の方が、村の議員さんなど、見に来ると、「山は見えるか、山は見えるか」ってよくおっしゃるんです。「山が良く見える場所に」って前の方にあるので、白馬の自然をいかしたとか、山のことはあっていいかと。



(委員長) 最後にそれは強く言ってもいいと思います。

(委員) 気持ちがちょっと入るといいかな。

(委員長) 念を押す感じで。建物そのもののデザインは別としても、少なくとも建物として、自然をうまく取り入れ、自然を感じられる建物。先ほどの花井さんの福井の例じゃないですけど、場合によってはガラスをつけて、冬でもそこで遊べるとか、閉鎖的じゃなくて、白馬の自然をそのままダイレクトに取り入れられる建物にしてほしい。

(委員) 抽象的で難しいですけど。

(委員長) これはすごく大切です。建設場所についてもそれがすごく重要で、山とか見える、見通しのいいところに立ててほしい。高い建物は建てて欲しくないですよ。そこに普通にあってそこに山が見える場所であり、それが感じられる建物構造にしてください、ということ強く入るってことで。

(委員) 確認なんですけど。小布施は約1000平米。どっちになっても青枠で駐車場も考えて、4000以上あるから大丈夫って考えでいいですかね。1000ていうと、25×40とか30×30くらいですよ。

(花井) 図書館規模で、人口からいえば1500くらいがいいと思う。複合施設にどのくらいのものがついてくるか、それが加味されて最終的には出てくる。全部が図書館エリアで考えると、めちゃめちゃ広いでしょう。図書館だけで考えると1000~1500くらいが、人口規模から考えるといいかなと。

(委員) 4000の敷地の規模なら、プラスアルファあっても、駐車場もあっても、十分。

(委員長) 図書館の敷地としては十分。人口規模で考えれば、計算式で言うと1200くらいが標準。

(花井) あとはどういう機能をみなさんがほしいか、どういうふうにしたいかで変わって来るけど。

(委員長) 人口規模で考える敷地としては。

(花井) 本棚があってサービスがあって。ここの多目的室がどういう規模かとかでかわるけど、基本的な考えとしてはいい。

(委員長) そんなに狭いという事はない。あとは駐車場や広場をどうするか。空間の事を考えたり

するけれど。

(花井) まちとしょテラソは人気で、使っていただいているので、週末や夏休みは、やはり狭く感じますね。大学に調査をかけたんですけど、椅子が足りないんじゃないかって。そこまで人気になったのは、うれしい悲鳴ですけど、そうなってほしいし。滞在できる時間の確保をするには椅子の確保も。今後、いろんなかたちで計算して。あと、ベビーカーでそのまま入れることが重要。乗り換えしなくていいように。もちろん車椅子もそう。本棚と本棚の間の長さですね。僕らは経験値でありますけど、そこらへんもこれから関わってくると、敷地がこれでいいのかってのは、これから当然もう1回議論。

(委員) 1000に対して4000なので。駐車場も含め安全確保の配慮ってところも。4倍あれば。

(関口課長) いまの支援ルームが、平面で1100平米くらいですから。ここの公園の部分も、村の土地なので、その使い勝手も合わせて、できるのかな。

(委員長) あえて公園を作らなくても、木流との公園の一体化した考えもある。新しい案だとちょっと公園からは離れる。

(関口課長) 木流川で分断されるような状態。

(委員長) アクセスはしやすくなる。

(関口課長) そうですね。このへんであれば、マイクロバス程度は進入できるかと。

(委員) 前回、白馬高校から白馬中学校までの道のりを、今のままじゃなく、少し考えるって話があったんですけど、そのへんはどうなんですか。

(関口課長) 長期的な中では、村の課題ではありますが、この図書館をつくるところで、そこを全てってのは、なかなか難しいかなと。まだ事業化が出来ていませんので。図書館自体の部分では、作る時期は示されているが、道は示されていない。完成しても道の方もできるという保証はない。であれば、今拡幅されている方も視野に入れておいた方がいいかと考えてこちらを出したんです。基本的には、支援ルームのほうでいいと思うが、あとは、村の財政の部分で道路が作れないのならこっちとかがって考えもらうしかないかなと。

(委員長) 条件をつけて「場合によってはここでもいいよ」という提示の仕方をしますか？

(関口課長) 公園は魅力があると思います、そうすると、こっちで道をなんとかって、いうふうに

もっていくのか。

(委員) 今、拡幅してあるっ道ってのは、ハピア側をけずったってことですよ。削るっていうか、少し歩道にしたんですよ。

(関口課長) そうですね。本当は大型バスが進入出来るくらいのスペースはほしいけど。今の塩の道では大型バスはちょっときつい。

(委員長) その弱点。前回、メリット分だけを書いて、第一候補を入れたんだけど。デメリット分の道の部分を書いておいて。道なのでね。デメリットですね、お金もかかる。

(関口課長) 木流の川については、耐震改修とか、やったばかりなんです。その段階では、道を広げるまでの事業化されなかった。道を広げるなら橋の架け替えとか、さらに事業費が。今、たぶん、村の公式ではないですが、給食センター、今、やってるので、向こうが優先されるのかなと、誰しも思うかと感じる。こっちのほうは広げて。小学校の通学路等考えれば向こうを広げる方が進むんじゃないか。こちらは後回しっぽくなる可能性がある。

(委員長) せめて正面、東側から上る道、平川神社から支援ルームだけ広げるようにすれば、多少は大きな車が入ってもいける？

(関口課長) 北小の給食のところから入って、体育館まわっていけば、大型は通れるかな。給食センターのあの角。正規の道じゃないですけどね。

(委員長) 全部じゃなくてもどこかアクセスをとりあえず1本つくればいけるんじゃない。整備して行けるなら。

(関口課長) 建物は後で動かすってできないですからね。道路は後で広げられるけど。やっぱり建物の方が長期的にあると思いますんで。

(委員長) 可能なら木流公園一体化整備が、イメージ的にはいいなという気がしている。木流公園を利用して、いっしょに人も行きやすいし車も止められればより行きやすくなるってことがあるかな。この新しい場所って候補地として出します？

(関口課長) この答申については、まず教育委員会へ答申。教育委員会で再度検討される。このまま出すかどうかは教育委員さんでもう1回確認する。さっきの保育園のアンケートも含めて、教育委員へまわします。そこで付け足すか、どうするのか。そのあと村の教育会議、村長部局と教育委員でありますのでそこで会議がおこなわれて、村長のほうへ行って、最終的なものとして有識者会議に行く。今のこの部分は最終決定されれば、委員長からもこのあとの有識者会議に情報提供して

もらう。場所については、やっぱり今この中で聞いている中だと、公園の一体的な利用がいいかと思ってます。それで道路を何とかしてほしいという部分を、まず第一に言っていく部分かと。委員長の方でこの案を頭の中に入れておいてもらって、なにかのときに、どうしようもないときにそれを使う可能性もあるか。

(委員長) 複合施設って話をするとき面積とかって話になってほしいですね、これが足りないのか、とか出るけど、このもともとの支援ルーム案で提出するってことでよろしいですかね。こういう1つの場所があるよってことで覚えておけば。まずは案を複数出す必要がないのであれば、支援ルームの場所もそこそこ面積が確保できていますので。道路のデメリットも書いておくとして。

(関口課長) 8の①の「建築場所については、建築規模に応じた敷地面積を確保するために、周囲の土地の取得も検討すること。また施設周辺の道路整備を行うこと。」の部分を、7pの「建設場所」のほうに移していきたい。道路環境の部分、こちらにも拡張の事書いてあるんですけど、合わせて一本化して、道路の部分に合わせてお願いしたいという形にしたい。

(委員長) 違う場所になる場合についてもってことで、今の校長先生の話にあった、自然のあるところで選定して下さいってかたちで付け加えた形にさせていただきます。これで固めていきますので、他に聞きたいこと、入れておきたいこと、花井さんにお聞きしたいこと、あれば。

(委員) 報告書には、このしろうま保育園のアンケートはもう組み込まれないんですか。

(委員長) どういう形で組み込むかは考えるけど。ナマで入れるのか、資料って形で。せっかく作っていただいたのでそのまま、添付するって形で。反映できればいいけど、ナマでみていただいたほうが、気持ちが確かに伝わっていいかも。いじらないほうがいい。誤字脱字だけ確認して。資料としてお願いします。

(下川) 報告書と別に、去年の幼稚園のもつけて、その2つを付ける形で資料として。

(委員長) こっちでやったワークショップのは、盛り込んだので、ナマの2つを切実な声を見てくださいということで、そのままつけましょう。

(委員) あと一つ。タイムスケジュールをみたときに、図書館長を今年中って。そのへんはどうなっているんですか。

(関口課長) 図書館長を次の4月からってことで、計画には載ってるんですけど、有識者会議でどういう形でするかってある程度の部分を見て行かないと、館長を今決めるのは難しい。当初の図書館長の計画では、地域おこし協力隊をお願いするってことだったけど、基本的に3年なので、それだと完成のときにはいない。なので今保留になってる状態。

(委員) 花井さんも公募でしたね。

(花井) 僕は5年です。

(委員長) それで、流れちゃったみたいなんです、今年は。3年では、1年だけ図書館長やって、終わりってなっちゃうじゃないですか、実質。むしろそこから3年。動き出して1年で終わっちゃうのは軌道に乗る前に終わるので問題なんです。別の考え方しないと、準備館長になって、できたらおしまいになっちゃう。本来それから本当の運営が始まるのに。

(委員) それは地域おこし協力隊で募集しようと思うから無理であって。

(渡邊) 補足というか。地域おこし協力隊は、ある種制度というか財源の問題で、3年たったらいなくなるといけないってことではなく、3年間は、国がある程度交付税として財源を措置します。それ以降は財源はないけど、同じ人をお願いするのもあります。それが1つと、いつってのは、今年度の予算は、自分は関わっていなかったのあれですけど、早くから議論に関わってもらうのもいいですが、今年度有識者会議も含めて、基本構想が見えてきて、だいたいなんとなくどういう方向性でいくのかが分かった上で、それに共感したりそれならやってみたい、という人に来てもらう方がお互いのためにはいいかなと、総務課としてではなく、個人的な意見ですが来年度から議論にはいってもらうくらいいいのかと。

(委員長) 可能な限り早い段階で入っていただいて。もう秋になったので。

(渡邊) 予算の中で出てくることだと思う。

(委員長) 募集かけて来てもらえるとも限らないので、なるだけ早く動くように考えて欲しいです。花井さんの方から何か話ありませんか。

(花井) カフェと飲食の話。参考事例になるかどうかわかりませんが。岐阜市立図書館は、館内では飲食できないんですが、生涯学習センターと1階がいっしょになっていて、スタバとローソンが入っている。カフェで食べたい人はそこでだし、ローソンでなにか買って、生涯センターの椅子とテーブルに行く。本を借りてくれば、そこで読めるし。図書館とのゆるい空間がある。岐阜に行かれたら、図書館もおもしろいですよ。メディアコスモスという名前。共有部分で融通がきくんです、かなり大きく。おもしろいのは、図書館と生涯学習センターと一緒に休みの日に合わせてローソンも休むんですよ。定休日がある、24時間じゃないローソンです。もう1つの事例としては、僕もかかわった、太田市の美術館図書館はカフェで買ったものを持ちこめるエリアを作っていて、基本的に本のあるところに持って行ってはいけないんですが、バリアをはってるとかじゃなくて、ゆるい、お客さんと運営側との約束事で、ここまでは、勉強しながら本を読みながら食べていいん

です。よってエリアがある。そこは多目的なスペースで、講演会や上映会をやるエリアなんです。最近つくられる図書館は1つの場所が1つの目的ではなく、多目的をどう自由に使うかを議論している。

(デザイン研究所 田中) 飲食の話、いろいろありますけど、私がまだだれもやってない時にやったのは、普通のカップ、コップ型の、あれは持ち込みは禁じました。ふた付、ボトルとか、ペットボトルは、閲覧室に持ちこんでもらっても、約束事でよしとしました。飲んだ後はふた閉めてねって。いろんなやり方があると思う。建物の作り方次第。ですから今ここで議論したところで、でき上がった建物がどういうものになるのか、見たら違ったものが見えてくる。もう1つ、熊本でやったのは、2階にコーヒーを入れてくれて飲めるところがある、図書館が3・4階なんです、2階で自分のボトルにコーヒーを150円くらいで入れてくれる。それを持ち込んで。コーヒーの香りがプンプンしていた時もありました。まあそれは構わないでしょう。それと、しゃべる話も出てましたけど、図書館はなぜ静かなのか、私はそれは全くわかりません、いまだに。静かな方がおかしいと思っています。人がいたらしゃべりますよ。大声は困るけど、普通のお話、相談事は全く構わないと思う。お子様連れで来られた時に、子どもについてはどうこうありますが、ある担当した図書館ですが、お母さん方に最初に話したのは、お子さんはどんどん騒がせてやってくださいと言いました、本当に。遠慮なしに騒がせてやってください、何か言われたらスタッフを呼んでください、ここの図書館はこういうところですからと、説明させますからと、そういうスタイルでやってきたんです。いつの時代からか知りませんが、図書館は静か、それは考え方がおかしい、それは私はいまだに静かな図書館はおかしいと思っている。やり方次第であるし、館長の考え方で、出てくるかもしれませんが、人が集うところなんだから。図書館全体が広場になってもかまわないですよ、静かな広場って不気味でしょう。大学だって今、ラーニングコモンズって言って溜まり場的な場所をつくっているところがいっぱい出て来てる。そういう時代なんで、かえていった方がいいと、私は思っている。これまで私はそういう形でやってきたつもりです。

(委員) まちとしょテラソの研修に参加したとき、花井さんが、なんでもありの図書館で、よっぽどの時しか注意しないってのは印象的。メモしてあるんです。

(委員長) 交流スペースという形で、村の人達が集まれる場所というイメージは大事なコンセプトですから、なるだけ「だめだ」を増やすのではなく、ある一定レベルのところを抑えてもらうというイメージで、それも含めて建物構造を考えて欲しいです。1つあるなと思ったのは、勉強しに行っている人もいないじゃないですか、同じフロアで、勉強している人がいるところだと。先日、中澤さんおっしゃってましたが、中学生が行ったら、勉強できずに帰って来ちゃったって言っていましたよね、子どもたちがうるさくて勉強できなかったってことがあるので。静かにしてほしい部分も。勉強している人がいることを考えると、そういう人にも考えてあげないと。造りかた利用のしかた、考えて。図書館そのものは敷居の高いものにしないってことが大事。そこでのルールが自然にできるのいいかも。音の研究をされてる先生、おもしろいですよ。

(デザイン研究所 田中) 常時BGMを流してる図書館もありますよ。そういう図書館も出て来てるわけですよ。音の事なんか気にしなくていいんじゃないですか。いちばん初めにスタートする際に、村の人たちに、そのへんのことも含めて、こういう図書館だよって、PRして始めればいいんですよ。

(委員長) そういうふうに行ってほしいと。だいたいこれで、案ができあがったということで、これでもう1回手直しして、話し合ったことを付け加えさせていただいて、この会の報告書として提出します。皆さんには郵送して確認いただいて。

(関口課長) 事務局の方で本日のご意見をまとめ、委員の皆さんには郵送します。教育委員会への提出は今月の30日。それまでにご意見がありましたら事務局までお寄せください。今回の有識者会議には、報告書としては出しませんが、資料として出せるかどうか教育委員会で考えます。

(委員長) これで終了？

(関口課長) はい。報告書を提出して、この委員会は解散です。

(委員長) 新しい図書館に向けての、一つの形を造り上げたことになりました。ありがとうございました。今後、今年、基本構想を花井さんの会社でつくっていただき、それに基づいて来年、基本計画という形で進んでいく。基本計画なり実施計画になって行く中で、村民に公開で意見を求める場面が出てくるでしょうし、そうあってほしいと思いますんで、そういうことするよね？パブリックコメントとか、そういうときにみなさん、あらためて、ご意見ご協力いただきたい。ここに出てきた話の筋がかわっていくようであれば、強くいってほしい。この会をこれで閉めさせていただきたいと思います。みなさんご協力ありがとうございました。

#### 4. 閉会